

連携団体

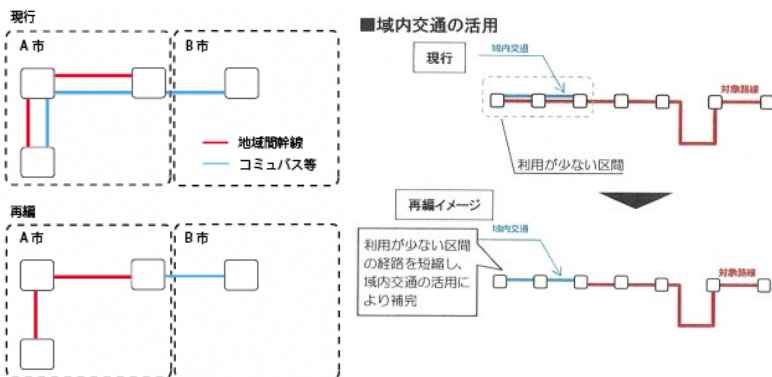
三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町

(1) 取組の背景、経緯

○連携8市町村は、青森県南東部に位置し、古くから文化的なつながりを持っており、通勤・通学、買物、医療等、主要な生活行動における日常生活圏が、八戸市を中心に形成されている。このような中で、平成22年2月に定住自立圏を形成し、圏域内の役割分担とネットワークの強化により、圏域全体のレベルアップを図るため、医療や公共交通等の各種連携事業を展開している。
○平成29年3月には連携中枢都市圏へ移行して、連携の更なる深化と圏域の活性化に向けて取り組んでいる。

(2) 取組の内容

■圏域単位での地域間幹線と地域内路線の再編の検討



○複数市町村を運行している、地域間幹線路線バスと域内のコミュニティ交通を中心に、関係市町村と協議し、再編実施計画を取りまとめた。

■地域間幹線路線バス分析シートの作成と生産性向上に向けた仕組みづくり

○福島大学吉田樹准教授及び名古屋大学福本雅之客員准教授を講師に関係市町村とともにワークショップを行った。

○1回目のワークショップでは、圏域町村から病院や高校等へ通う際、地域間幹線路線バスと域内のコミュニティ交通がきちんと接続しているか、希望時間内に到着できるか等を時刻表や路線図を用いながら確認した。

○2回目のワークショップでは、分析シートの作成及び分析シートを確認する際に必要な用語等の確認を行った。

○これらのワークショップ等を踏まえて、新規担当職員にとっても参考になる手引きの作成を行った。

(3) 取組の特徴・ポイント

○地域間幹線路線バスに関しては、数値等の客観的なデータをもとに関係自治体で必要性等を検討したため、客観性に基づく議論ができた。
○域内のコミュニティ交通に関しては、ワークショップを実施したことにより、関係自治体の職員が利用者目線で路線を考えることができた。
○分析シートに関しては、中部運輸局で作成しているものを参考にしながら、新規担当者がつまずくような用語解説等も入れており、他の地域でも活用できるものとなっている。

(4) 今後の展開

○再編実施計画について、東北運輸局へ認定申請を行い、令和3年3月に大臣認定済み。
○また、圏域内では、今後も高校等の統廃合や庁舎移転等もあることから、関係町村との路線再編についても引き続き協議していく。
○分析シートについては、令和2年度中に各町村へ配布。今後は、令和3年度当初にそれを活用したワークショップを活用し、圏域担当者のブラッシュアップを行っていく。